

(資料1)

四国森林管理局管内の木材価格等の推移  
(最近の動向)

令和4年3月18日  
四国森林管理局

## 目次

I	管内における主な原木市場・共販所の状況	
1	丸太価格の推移	1
2	丸太取扱量の推移	5
II	管内における製材等の状況	
1	製材用素材入荷量の推移	8
2	製材用素材在庫量の推移	9
3	製材品価格の推移	10
III	全国の丸太価格の動向	11
IV	住宅着工戸数	
1	四国における木造住宅着工戸数の推移	13
2	全国の住宅着工戸数の推移	14

# 管内における主な原木市場・共販所の状況

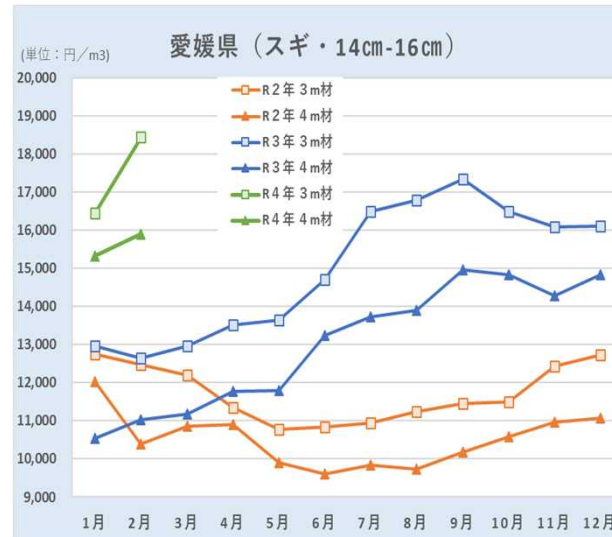
## 1-(1) 丸太価格の推移 (スギ、径14cm~16cm 長3m材・4m材)

- 令和3年は、春先からの原木需要の高まりによる買い方の旺盛な引き合いも秋口には一端落ち着いたが、年明け頃からは再び引き合いがよくなり価格は強含んでいる。
- 徳島県では、6~7月頃に大幅に価格が上昇し、その後は落ち着きを見せていたが、2月に入り4m材が上昇した。
- 愛媛県や高知県では、7~9月頃をピークに秋頃からは弱気配もみられたが、2月に入り3m材を中心に上昇した。
- 2月のスギ丸太価格は、前年同月比113%から152%で推移。

### ○ 2月のスギ丸太価格

(円/m3)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	3m材	13,500	12,000	113%
	4m材	16,000	10,500	152%
愛媛県	3m材	18,443	12,650	146%
	4m材	15,900	11,023	144%
高知県	3m材	16,833	13,167	128%
	4m材	15,333	10,667	144%



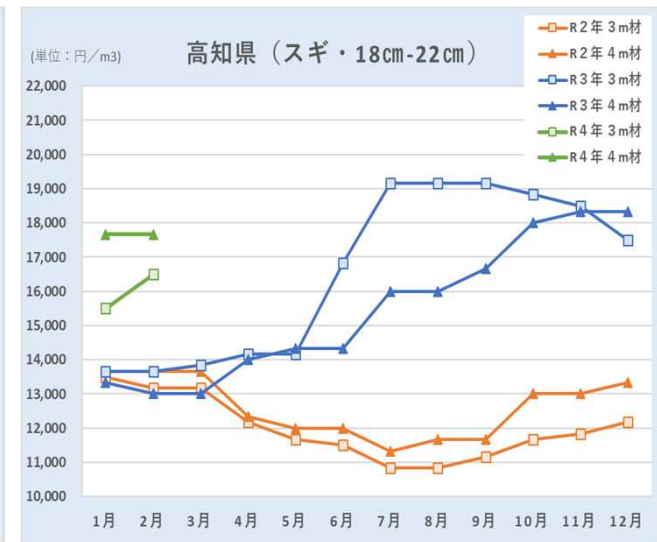
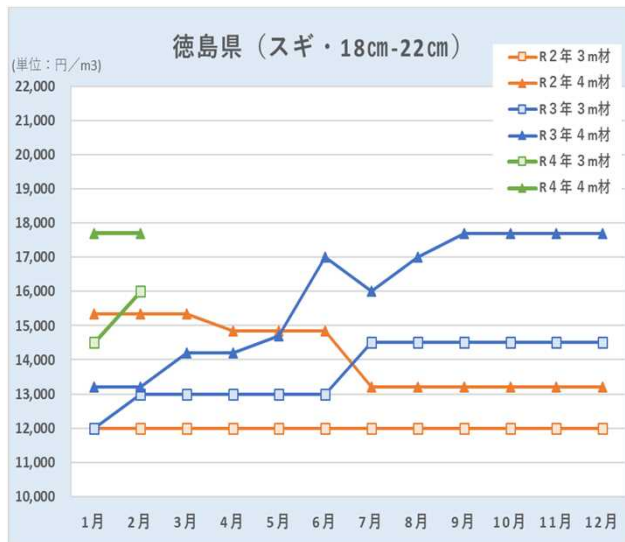
## 1-(2)丸太価格の推移 (スギ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 中目丸太も柱適寸丸太と同じく春先からの旺盛だった引き合いも秋口には弱くなり3m材を中心に弱含んだが、年明け頃から再び引き合いがよくなり価格も強含んでいる。
- 徳島県では6月頃に大きく上昇し、その後も全体的に保合で推移していたが、2月に入り3m材が上昇した。
- 愛媛県や高知県では、8~9月頃をピークに弱気配へと移行したが、2月に入り3m材が上昇した。
- 2月のスギ丸太価格は、前年同月比121%から136%で推移。

### ○ 2月のスギ丸太価格

(円/㎡)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	3m材	16,000	13,000	123%
	4m材	17,700	13,200	134%
愛媛県	3m材	18,203	13,890	131%
	4m材	17,530	13,387	131%
高知県	3m材	16,500	13,667	121%
	4m材	17,667	13,000	136%



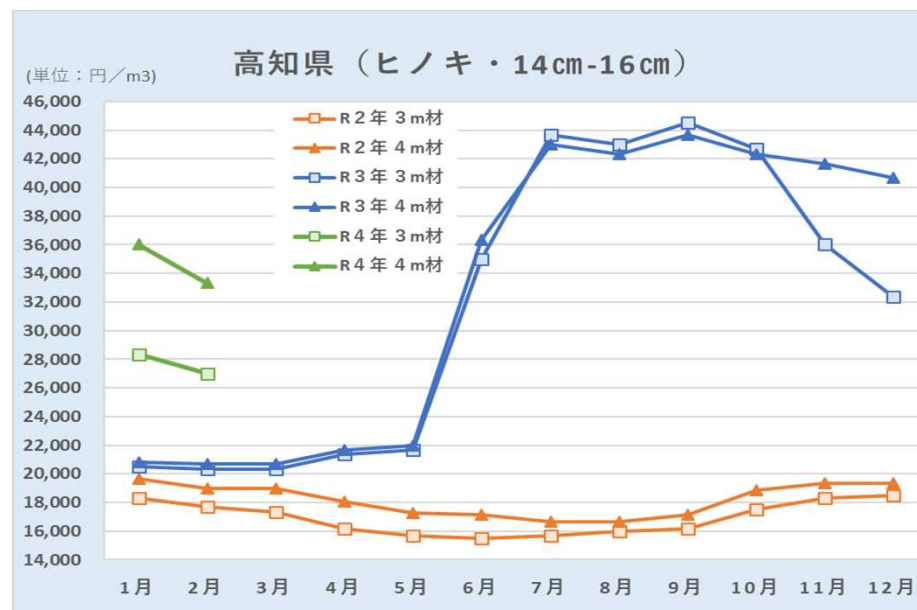
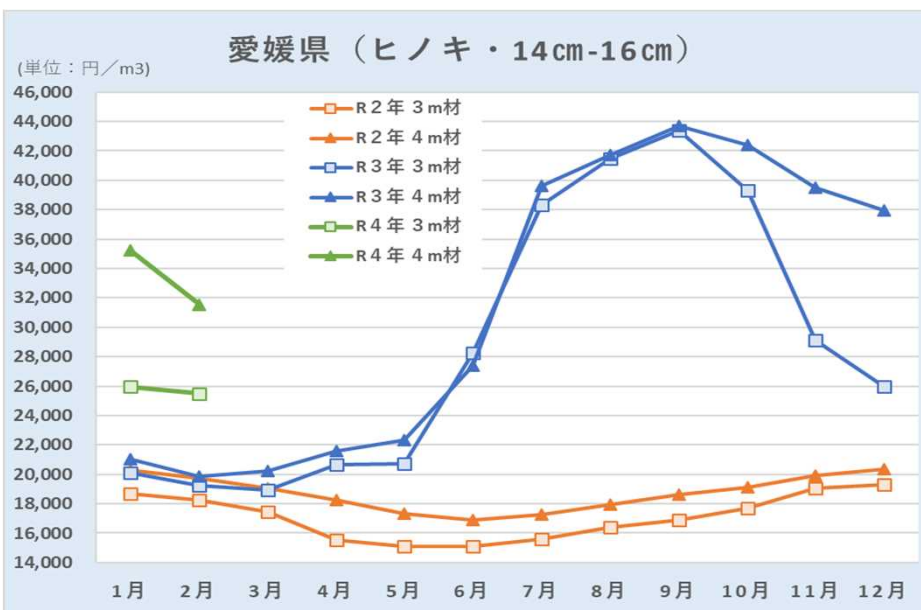
## 1-(3)丸太価格の推移（ヒノキ、径14cm～16cm 長3m材・4m材）

- ヒノキもスギと同様に構造用丸太を中心に4月頃から買い方の旺盛な引き合いにより、特に6～9月にかけては価格が徐々に高騰したが、9月頃をピークに引き合いが弱くなり価格も下落傾向となった。年明け後もヒノキの出材が好調なこともあり引き続き弱含んでいる。
- 愛媛県では、10月以降、特に3m柱適寸丸太の下落が顕著であった。2月に入っても下落傾向にはあるが、下落幅は落ち着きつつある。
- 高知県も愛媛県と同様に下落傾向にある。
- 2月のヒノキ丸太価格は、対前年比133%から161%で推移。

### ○2月のヒノキ丸太価格

(円/m<sup>3</sup>)

県	長級	当月	前年 同月	前年 同月比
愛媛県	3m材	25,500	19,210	133%
	4m材	31,533	19,877	159%
高知県	3m材	27,000	20,333	133%
	4m材	33,333	20,667	161%



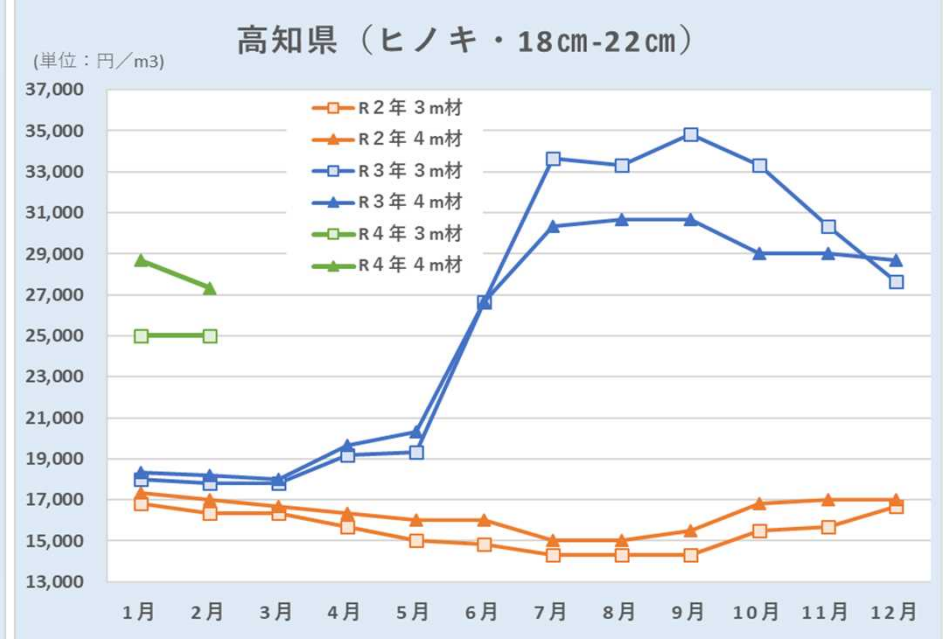
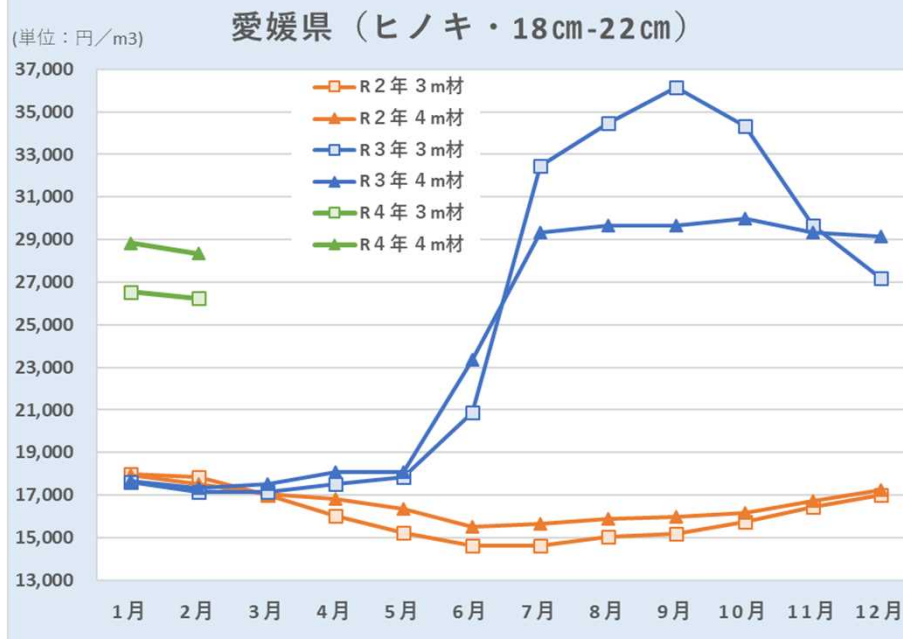
## 1-(4)丸太価格の推移 (ヒノキ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 中目材も柱適寸丸太と同じく、本年4月頃からの旺盛な引き合いにより、特に6~9月にかけて価格が徐々に高騰したが、9月頃をピークに引き合いが弱くなり価格も下落傾向となった。最近でもヒノキの出材が好調なこともあり引き続き弱含んでいる。
- 愛媛、高知両県とも、10月以降、特に3m材の下落が顕著であった。2月に入っても下落傾向にはあるが、下落幅は落ち着きつつある。
- 2月のヒノキ丸太価格は、対前年比140%から163%で推移。

### ○ 2月のヒノキ丸太価格

(円/m<sup>3</sup>)

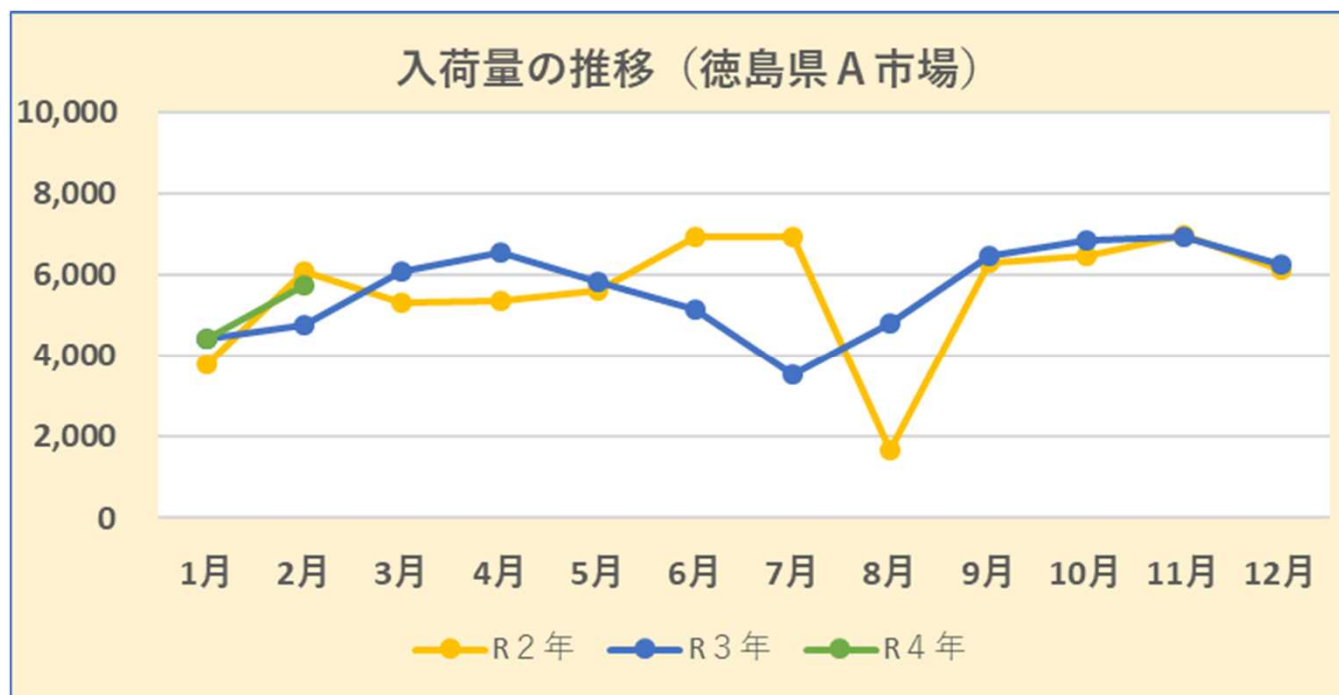
県	長級	当月	前年同月	前年同月比
愛媛県	3m材	26,233	17,130	153%
	4m材	28,333	17,333	163%
高知県	3m材	25,000	17,833	140%
	4m材	27,333	18,167	150%



# 管内における主な原木市場・共販所の状況

## 2-(1) 丸太取扱量の推移（徳島県）

- 夏場には長雨等の影響で入荷量が少なかったが、9月以降は概ね順調に回復。
- 2月時点では好天にも恵まれたことから、土場には未選別の状態で在庫が多い。県有林や民材の入荷も多い。
- 次年度も県有林の出材が予定されており、土場は満杯状態がしばらく続きそう。

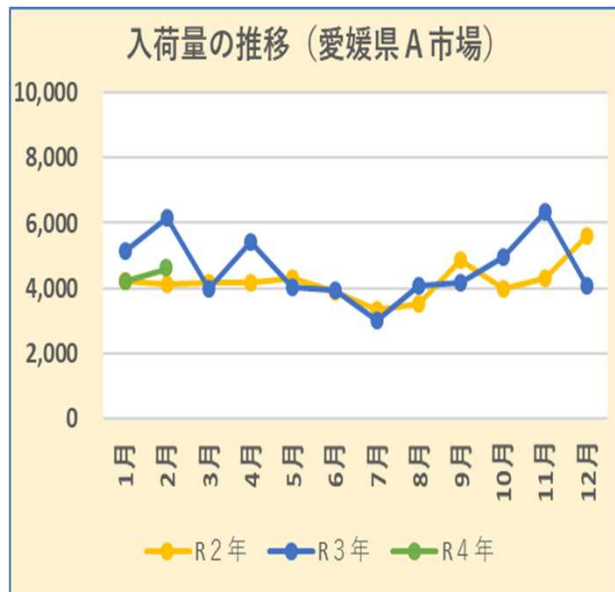


四国森林管理局調べ



## 2-(2) 丸太取扱量の推移（愛媛県）

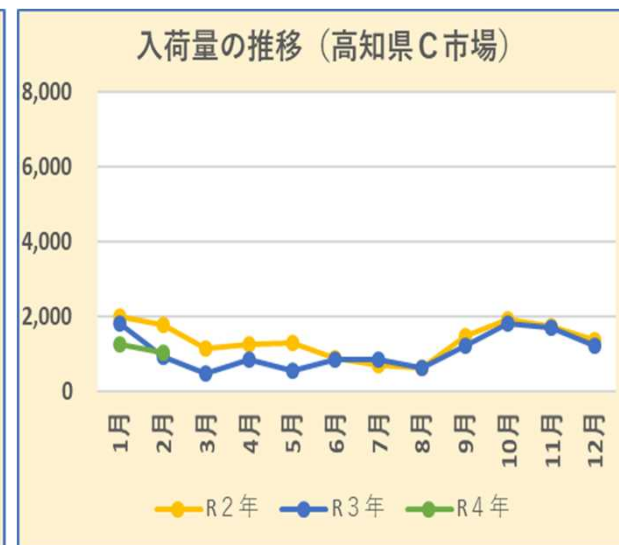
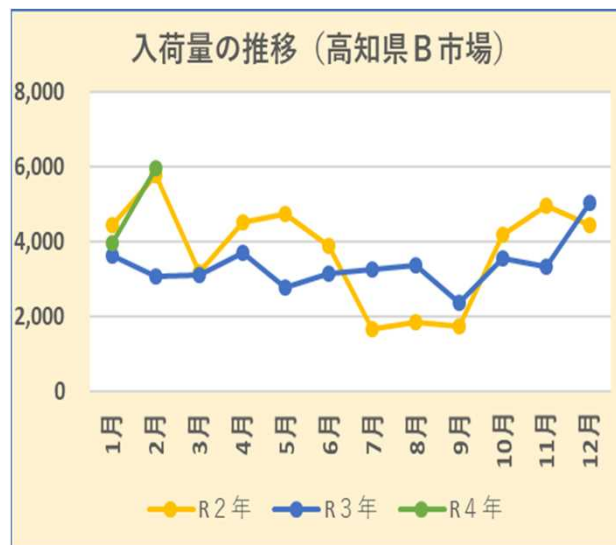
- 9月以降は天候にも恵まれ出材は順調、入荷は例年に比べ増加傾向にある。
- ヒノキは製品荷動きが悪くなっており、原木の引き取り状況も鈍化。スギは概ね良好。
- ヒノキについては、製材品の荷動きに一服感が伝えられ原木価格にも影響、引き合いも弱い。スギについては3m材を中心に買い意欲旺盛。





## 2-(3) 丸太取扱量の推移（高知県）

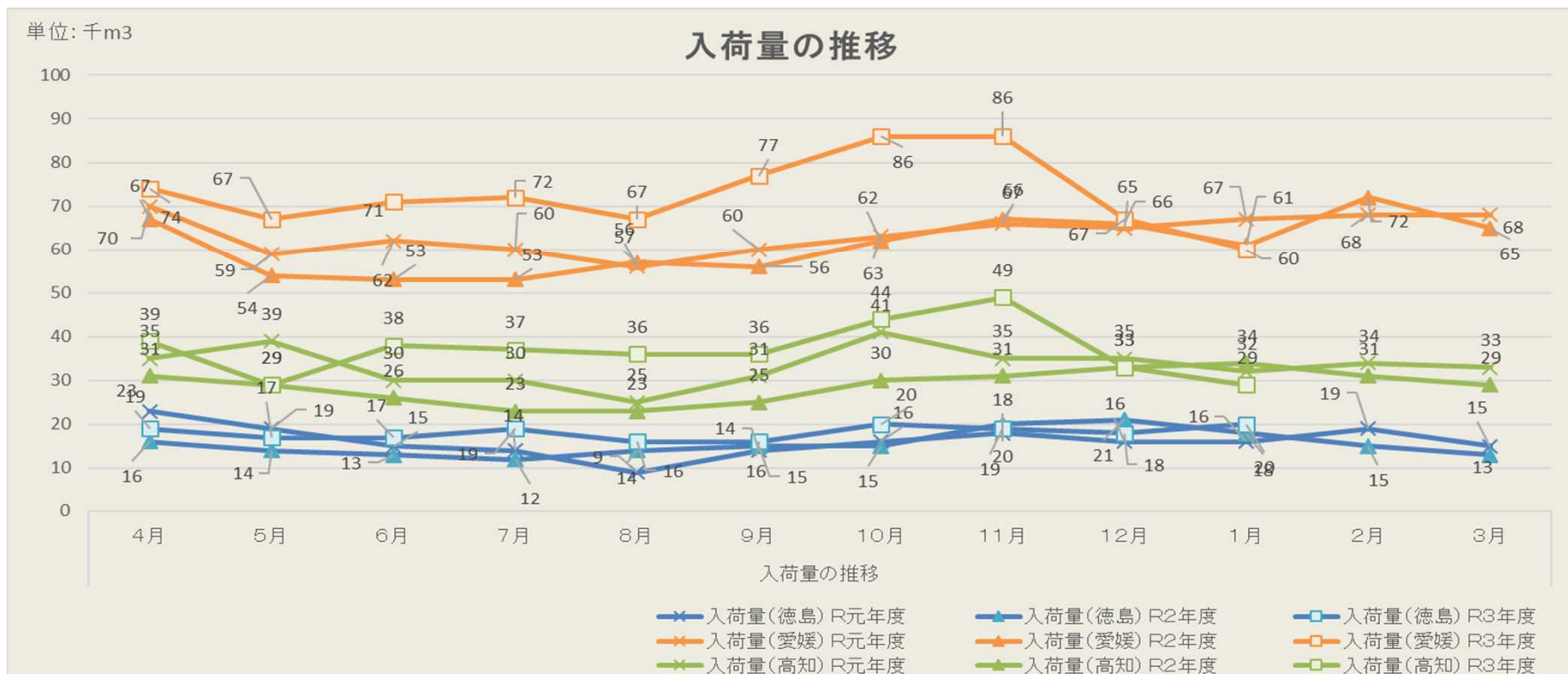
- 市況も落ち着いており入荷量は増加傾向。ヒノキは単価が値下がり傾向にあるが、現時点ではヒノキの出材が多い。また、造材は3mから4mに変化しつつある。
- スギについても、年明け頃までは3m材が多かったが、最近では4m造材に変化しつつある。
- 現状では、ヒノキは供給過剰気味。スギは3m材を中心に不足気味。



## II 管内における製材等の状況

### 1. 県別の製材用素材入荷量の推移（令和元年度～令和3年度）

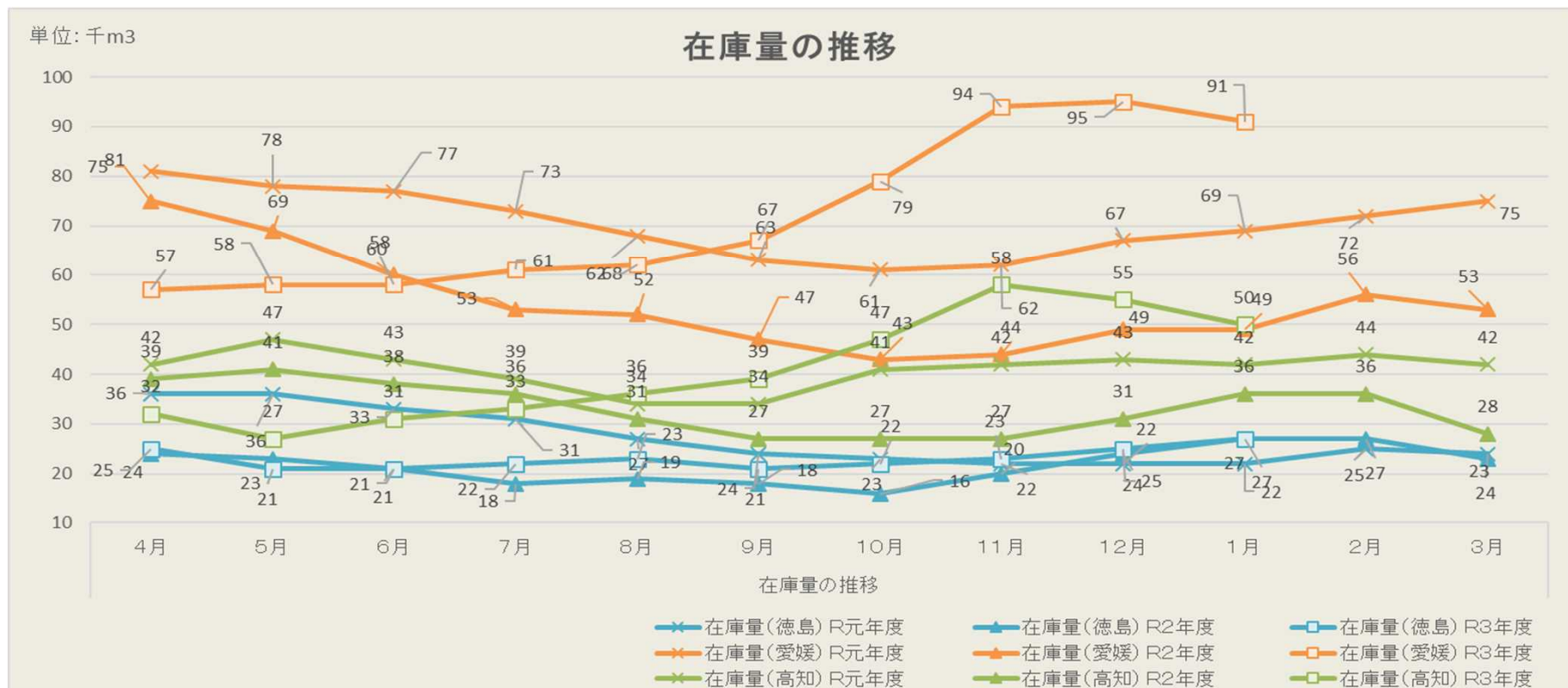
- 令和3年度は、製材品の好調な動きによる素材の引き合いを背景に、入荷量は11月頃までは好調に推移したが、製材各社の原木在庫も潤沢に確保されてきたことから12月以降は例年並みで推移。
- 愛媛県の入荷量は、4月以降例年を上回り、特に9～11月は大幅増となったが、12月以降は例年並みに戻った。
- 徳島県や高知県でも、6月頃から例年を上回っていたが、12月以降は例年並みに戻った。



資料: 農林水産省「製材統計」

## 2. 県別の製材用素材在庫量の推移（令和元年度～令和3年度）

- 製材各社は、好調な生産活動が続く中、積極的な丸太の仕入れに努めてきたことから、在庫量は6月頃から増加に転じ、9月頃からは例年を上回る傾向となったが、11月をピークに最近ではやや減少傾向にある。
- 愛媛県や高知県では、11月に例年を大きく上回る在庫量となったが、その後は緩和され1月にかけて減少した。
- 徳島県では、9月頃に例年の在庫量まで回復した後は、概ね横ばいで推移している。

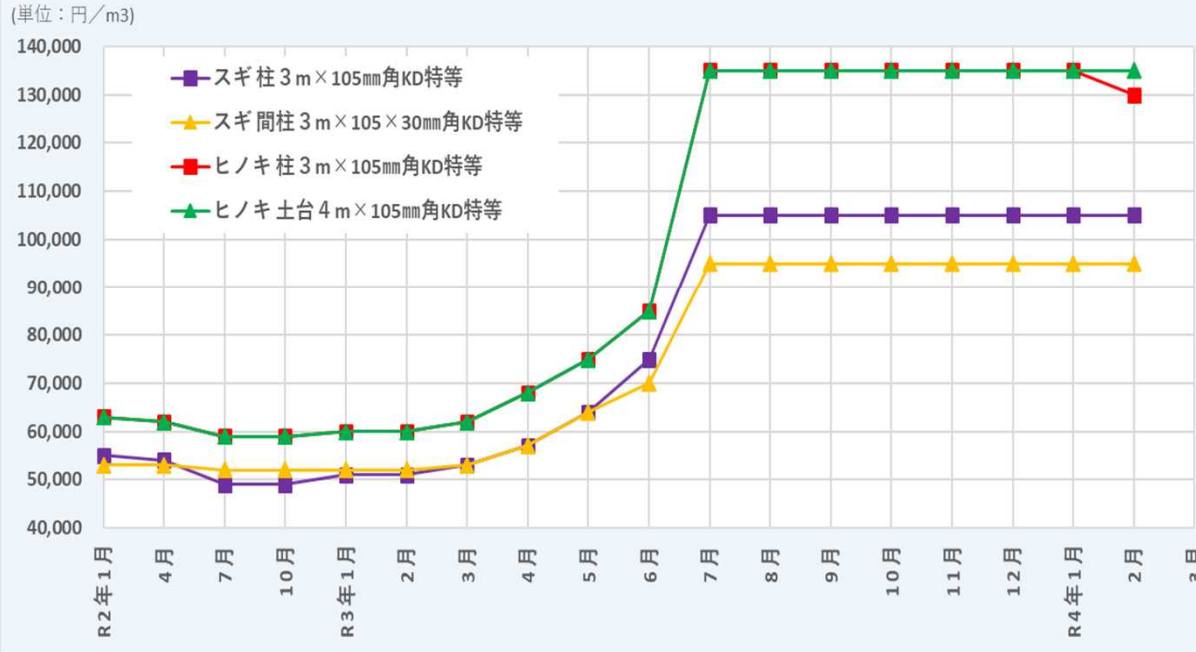


資料: 農林水産省「製材統計」

### 3. 製材品価格の推移

- 令和3年は輸入材の代替需要の高まりから、スギ・ヒノキともに構造材を中心とする品目で徐々に値を上げ、7月からは高値を維持。
- 最近の西日本の傾向としては、スギ製品は柱や間柱など不足感のある輸入製品の代替需要として、堅調な荷動きがみられるが価格は横ばいで推移。ヒノキ製品は、柱、土台角を中心に荷動きが鈍化しており価格も弱含み傾向。
- 愛媛市場においても同様の傾向がみられ、ヒノキ製品は柱等の価格がやや下落した。

国産材製品の相場（愛媛市場）



国産材製品の相場（愛媛県）

単位：円/m<sup>3</sup>

	品目	当月	前年同月	前年同月比
スギ	柱 3m×105mm角KD特等	105,000	51,000	206%
スギ	柱 3m×120mm角KD特等	95,000	50,000	190%
スギ	間柱 3m×105×30mm角KD特等	95,000	52,000	183%
ヒノキ	柱 3m×105mm角KD特等	130,000	60,000	217%
ヒノキ	柱 3m×120mm角KD特等	125,000	60,000	208%
ヒノキ	土台 4m×105mm角KD特等	135,000	60,000	225%
ヒノキ	土台 4m×120mm角KD特等	130,000	60,000	217%

資料：日刊木材新聞

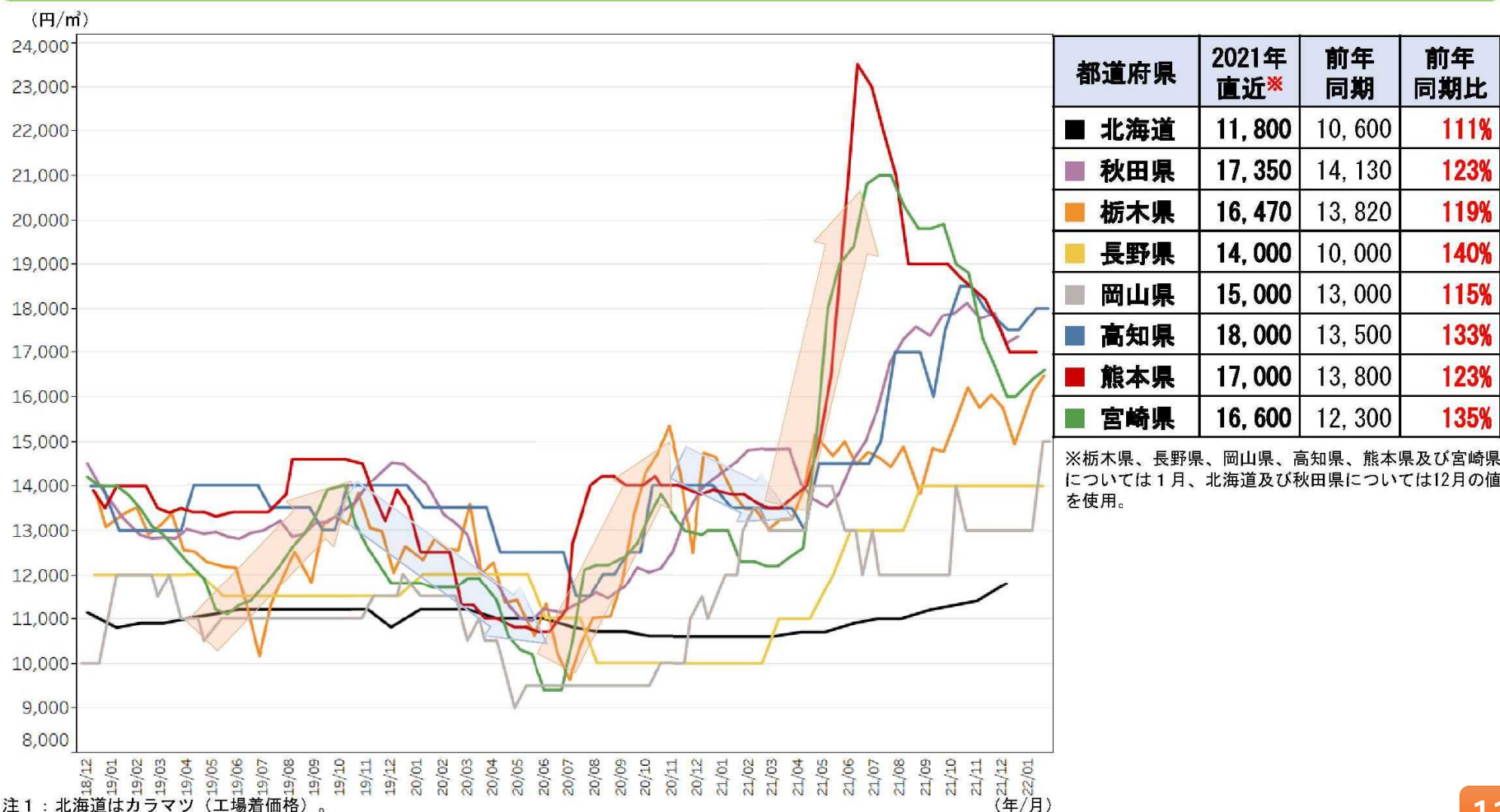


# Ⅲ 全国の丸太価格の動向

## 1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)

### ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- 例年であれば春から梅雨時期にかけては原木価格が下落する時期にもかかわらず、2021年に入ってから4月以降、価格が上昇する地域が多く見られる。九州地域では価格が高騰したが、直近では全国的に高止まり傾向。
- 直近のスギ原木価格は、前年同期比115%から140%となっている。

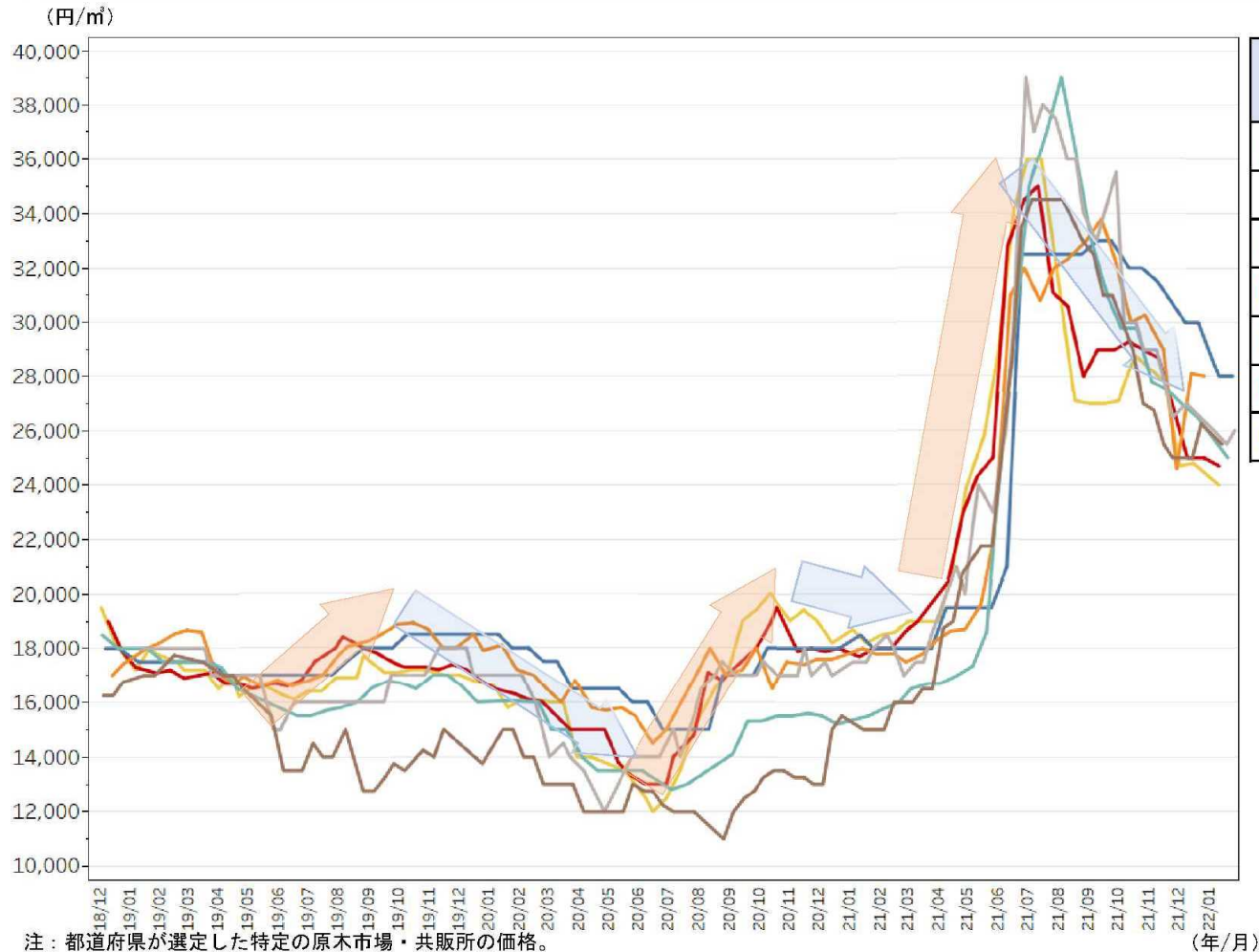


注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。  
注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

## イ ヒノキ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

- ・ヒノキにおいてもスギと同様の傾向にあり、例年であれば春から梅雨時期にかけては原木価格が下落する時期にもかかわらず、2021年に入ってから4月以降、全ての地域で価格が大きく上昇し、直近では例年程度まで戻らないものの下落傾向。
- ・直近のヒノキ原木価格は、前年同期比128%から170%となっている。



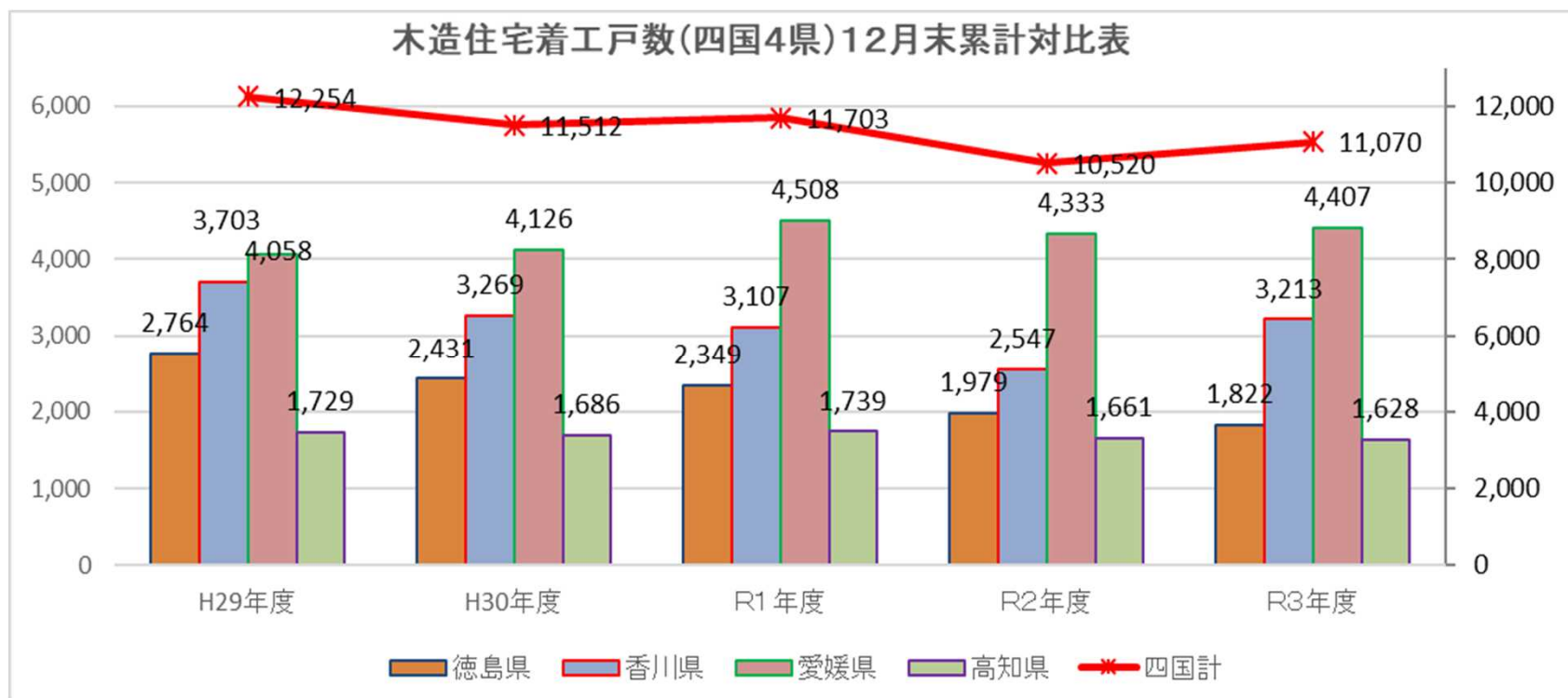
都道府県	2021年直近*	前年同期	前年同期比
兵庫県	25,500	15,000	170%
岡山県	26,000	18,000	144%
広島県	25,000	15,500	161%
愛媛県	28,000	17,600	159%
高知県	28,000	18,000	156%
熊本県	24,700	17,700	140%
大分県	24,800	18,700	128%

※兵庫県、岡山県、広島県、高知県、熊本県及び大分県については1月、愛媛県については12月の値を使用。

# IV 住宅着工戸数

## 1 四国における木造住宅着工戸数の推移

- 四国における木造住宅着工戸数の令和3年度12月末累計は11,070戸で、前年同月末累計10,520戸に比べ5%増加した。
- 過去4年間での比較では、徳島県では減少率は大きく、香川県では減少傾向から令和3年度は若干回復、愛媛県・高知県では概ね横這いで推移している。

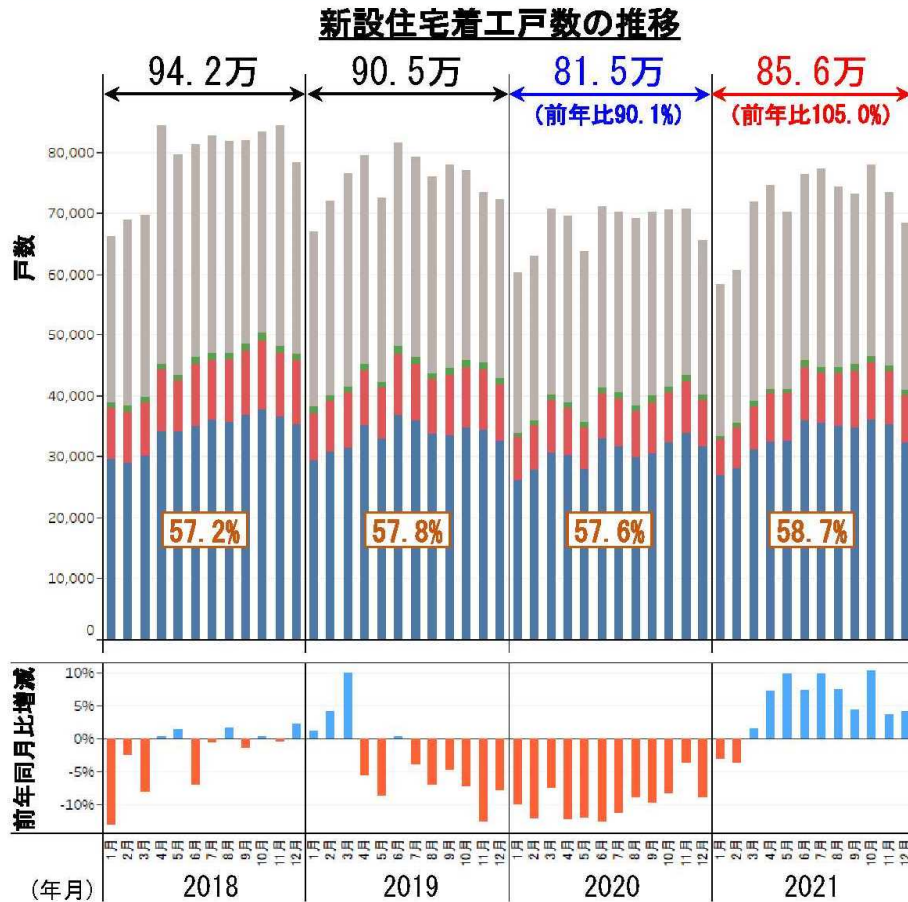


資料:国土交通省「住宅着工統計」



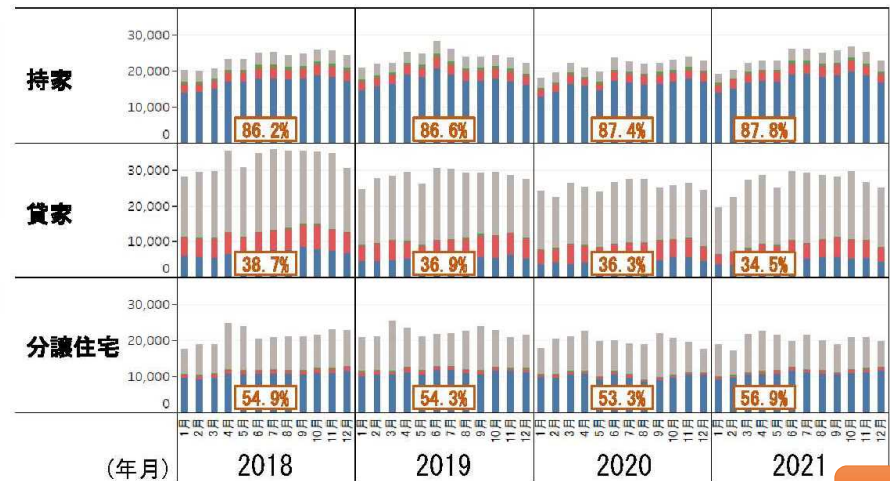
## 2 全国の住宅着工戸数の推移（2018年1月～2021年12月）

- 2020年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比90.1%）、このうち木造住宅は46.9万戸（同89.7%）。
- 2021年の新設住宅着工戸数は、85.6万戸（前年比105.0%）、このうち木造住宅は50.2万戸（同107.0%）。
- 2020年は緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショック時ほどの落ち込み※は見られなかった。  
（※2009年の新設住宅着工戸数は前年比72%となった。）



構造別の着工戸数	2021年 1～12月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	856,484	815,340	105.0%	905,123	94.6%
■非木造	354,154	346,045	102.3%	381,804	92.8%
木造	502,330	469,295	107.0%	523,319	96.0%
■木造プレハブ	10,509	10,822	97.1%	12,111	86.8%
■2×4	96,018	93,009	103.2%	109,625	87.6%
■在来軸組	395,803	365,464	108.3%	401,583	98.6%
□木造率	58.7%	57.6%		57.8%	

（参考）利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）



# 「定常範囲を逸脱する動き」について

(資料2)

## 分析結果

### (ア) 木材価格の**前月比**における逸脱の有無

調査月 令和3年10月～令和4年1月

- 【スギ中丸太】 ・定常範囲を逸脱した動きはなかった。
- 【ヒノキ中丸太】 ・12月に逸脱下限値を下回ったが、以降は定常範囲に戻った。

### (イ) 木材価格の**前月比**における下落(上昇)の継続

調査月 令和3年10月～令和4年1月

- 【スギ中丸太】 ・5ヶ月以上である。
- 【ヒノキ中丸太】 ・5ヶ月以上である。

### (ウ) 木材価格の**前年度同月比**における逸脱の有無

調査月 令和3年10月～令和4年1月

- 【スギ中丸太】 ・10月までは逸脱上限値を上回ったが、11月以降は定常範囲に戻った。
- 【ヒノキ中丸太】 ・全ての月で逸脱上限値を上回った。

### (エ) 木材価格の**2ヶ年平均価格比**における逸脱の有無

調査月 令和3年10月～令和4年1月

- 【スギ中丸太】 ・定常範囲を逸脱した動きはなかった。
- 【ヒノキ中丸太】 ・11月までは逸脱上限値を上回ったが、12月以降は定常範囲に戻った。

### (オ) 製材用素材の**在庫率**における逸脱の有無

調査月 令和3年10月～令和4年1月

- 【徳島県・愛媛県】 ・定常範囲を逸脱した動きはなかった。
- 【愛媛県・高知県】 ・定常範囲を逸脱した動きはなかった。

四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会運営要領（平成25年7月30日付け25四資第19号）の2の（ア）から（オ）に係る確認

#### 〔判断基準・指標〕

- 過去10年間の月別データを基に、平均と標準偏差から95%の信頼区間を算出し、その区間を逸脱するか否かを確認
- 使用データは、農林水産省の「木材価格」・「製材統計」を使用

## ○ 丸太価格、在庫率の変動

### 1 スギ中丸太価格（徳島県・愛媛県）

	逸脱上限値				逸脱下限値				逸脱上限値				逸脱下限値											
	5.82%				-5.73%				21.65%				-20.00%				17.25%				-16.52%			
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)											
	10月	11月	12月	1月	10月	11月	12月	1月	10月	11月	12月	1月	10月	11月	12月	1月								
スギ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	-3.36%	-1.22%	-3.78%	-1.82%	-2	-3	-4	-5	<u>24.87%</u>	19.30%	9.93%	9.62%	16.51%	14.71%	10.45%	9.35%								

注1) 数値のアンダーラインは定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

### 2 ヒノキ中丸太価格（愛媛県・高知県）

	逸脱上限値				逸脱下限値				逸脱上限値				逸脱下限値											
	9.11%				-9.10%				39.17%				-38.02%				30.41%				-31.50%			
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)											
	10月	11月	12月	1月	10月	11月	12月	1月	10月	11月	12月	1月	10月	11月	12月	1月								
ヒノキ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	-4.04%	-8.72%	<u>-15.67%</u>	-0.61%	-2	-3	-4	-5	<u>103.50%</u>	<u>78.66%</u>	<u>41.66%</u>	<u>43.09%</u>	<u>72.81%</u>	<u>55.92%</u>	26.32%	23.16%								

注1) 数値のアンダーラインは定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

### 3 製材用素材の在庫量

	素材の在庫率			
	10月	11月	12月	1月
製材用素材(徳島・愛媛)	1.15	1.33	1.38	1.37
製材用素材(愛媛・高知)	1.21	1.44	1.43	1.36

逸脱上限値	逸脱下限値
1.90	0.79
1.58	0.88

注1) 数値のアンダーラインは定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 在庫率のデータは農林水産省の「製材統計」を使用し、算出したものである。